

素材の質感…… つどいのひろば(母と乳幼児施設)

つどいのひろば:

古民家のオーナーが
離れを就園前の乳幼児
を持つ母親の育児相談
の場として活用した建物

左:遊戯室(居間)、

中央に杉丸太のある
遊び場の場。屋根、壁
の構造、仕上げそのま
ま表した吹抜けのある
部屋で床には暖房を敷
いている。壁には仕上
げと同じ杉無垢板の棚
の上にはオーナーが収
集した世界の遊具と絵
本が並んでいる。

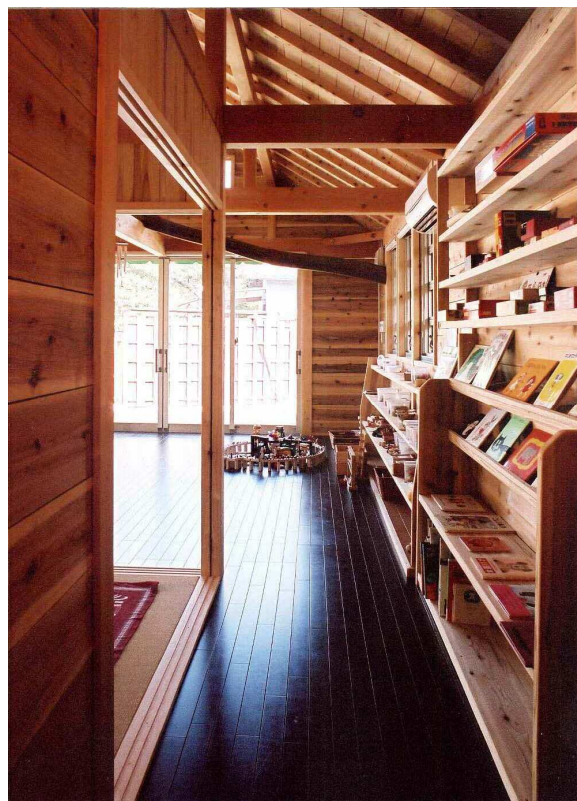
右:休憩室(湯沸し)

壁と同じ板で作成した
テーブルに銅板のシン
クを仕込んでいる

下:畳の間横の廊下から遊戯室をみる。



毎年梅雨の季節になると今回ご紹介する「つどいの広場」を思い出す。「木」を仕上げに使った建物は多いが、この建物はまさに構造と仕上げが一体となっている。柱、梁ではなく壁そのものが、である。杉の足場板をWに使い(t=30+30)柱に溝を加工して落とし込んでいる。木の塊の仕様が且つ材料費が安価だ。竣工後、梅雨の季節に訪問する機会があり写真右上の休憩室で暫し懇談となった。高湿度で不快指数の高い一日だったが、部屋の中は不思議と心地良い環境になっていた。木を仕上げに使った設計は多くしているが、この時ばかりは少し違っていた。大袈裟に言えば「空気が違う!」。以前吸湿効果の高い珪藻土を研究している方から「似た商品は各社有るが、所詮素材の厚みにつける」と教えて頂いた。木も同様、厚みのある素材の質感は何とも言えない心地よさである。



左下:トイレ

右下:外観

全て杉足場板を使った。